

2021（平成 33）年度入試以降の大学入学者選抜における基本方針について

札幌学院大学では、高大接続改革の推進及び多面的・総合的な評価の観点から、2021（平成 33）年度入試以降の大学入学者選抜において、以下のとおり「大学入学者選抜における基本方針」を定めました。今後は、この方針に基づいて、入試の詳細な選抜方法を策定し、2019（平成 31）年 3 月末に具体的な選抜方法等について公表いたします。

1. 全入試制度共通事項

（1）学力の 3 要素の評価

全ての入試区分において、学力の 3 要素（※）を合否判定の際に評価します。

※学力の 3 要素

- ①「知識・技能」（基礎学力）
- ②「思考力・判断力・表現力」（応用力）
- ③「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」（主体性・多様性・協働性）

（2）調査書の活用

全ての入試区分において、学力の 3 要素を評価する観点から調査書を合否判定に活用します。

2. 入試区分の変更

（1）入試区分の変更

- ①AO・自己推薦入試 → 総合選抜型入試
- ②推薦入試（指定校・公募制等） → 学校推薦型入試
- ③一般・センター利用入試 → 一般選抜型入試
- ④特別入試（社会人・外国人留学生・海外帰国生） → 特別選抜型入試

3. 一般選抜型入試に係る変更点

（1）大学入学共通テストにおける記述式問題の活用

これまで「大学入試センター試験」の成績を活用していた「大学入試センター試験利用入試」を新たに「大学共通テスト利用入試」と名称を変更し、「大学共通テスト」の成績を活用すると共に、「大学共通テスト」の択一式問題に加えて記述式問題についても合否判定に活用します。

（2）英語の外部検定試験の活用

英語の 4 技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）を適切に評価するために、一般選抜型入試の個別試験（旧一般入試）において英語の外部検定試験の結果を合否判定に活用します。

（3）個別試験（旧一般入試）における「国語」の必須化

個別試験（旧一般入試）では、本学の教育目標やアドミッションポリシーに基づく資質を測る観点から全学科において「国語」を必須科目とし、その中で「知識・技能」に加えて、「思考力・判断力・表現力」を評価します。